**第３７回観察会　2007年４月14日(金)　12:05～12:50　曇り**

**テーマ『タンポポからさぐる生物の分布』**

**☆ガイドのレポート**

最近、在来のカンサイタンポポが急速に減ってそのかわりに外来のセイヨウタンポポが分布を拡大していると言われる。京大構内においてはどうだろうか？今回の観察会では、京大の北部構内でタンポポの分布を調べ、植物園の特色を確認してもらうことを目的とした。北部構内の多くの場所では、すでにセイヨウタンポポが圧倒的でカンサイタンポポはわずかしか分布していない。これに対して、植物園内ではカンサイタンポポがほとんどで、セイヨウタンポポはわずかに見つかるだけだった。なぜカンサイタンポポとセイヨウタンポポが共存しないのかについては、これまで多くの研究があるが未だにその理由ははっきりとしていない。この観察会では、両種が共存できない理由として「昆虫の花粉媒介を通じた生殖干渉」をとりあげて、他の説と比較してその可能性について説明した。

最近の研究によれば、これまでセイヨウタンポポとみなされてきたもののほとんどはカンサイタンポポとの雑種で、父親はセイヨウタンポポ、母親はカンサイタンポポであることが分かっている。カンサイタンポポのめしべにセイヨウタンポポの花粉がつくとほとんどのたねは実らず死んでしまう。しかしほんの一部の種は結実し、雑種ができる。ほとんどの雑種のたねが死んでしまった空き地に、あだ花のように雑種タンポポがはびこるのだ。花をぼんやり眺めていると、いかにも雑種タンポポはたくましく生存力が強いようにみえるけれども実はそれは錯覚であり、カンサイタンポポの種子が実らないことの結果にすぎないと思われる。

観察会当日はまだタンポポの開花初期でたくさんの花を見ることはできなかったが、両種がほんの一部しか重複して分布していないこと、植物園内ではカンサイタンポポが圧倒的に多いことは確認できた。また、京大構内でカンサイタンポポがちらほら残っている場所は植物園の近くが多く、植物園がカンサイタンポポの種子の供給源になっている可能性があった。植物園は小さいけれど、カンサイタンポポにとっては大切な生息場所であることが改めて確認できた。

ガイド：西田隆義さん（京都大学農学研究科昆虫生態学研究室）

[資料](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/kansatu37shiryo01.pdf)

**☆植物フェノロジーリスト**

開花：  
カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ（在来タンポポとの雑種である可能性大）、ハナニラ、ヤブニンジン、ハナダイコン、スミレ、タチツボスミレ、ナズナ、ムラサキサギゴケ、ホソバオモダカ、バイモ、カラスノエンドウ、ムラサキケマン、シャガ、ジゴクノカマノフタ（キランソウ）、クサイチゴ、ヤマアイ、ホウチャクソウ、ムラサキカタバミ、ニチニチソウ、ハルジオン（以上、草本）  
ボケ、ユキヤナギ、サクラ（シダレザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ）、アオキ、ニワトコ、ハナノキ、ヤマブキ（一重、八重）、ゲンペイシダレモモ、ツバキ、ウリカエデ、シャクナゲモドキ、イワガサ、ロウアガキ（以上、木本）

結実：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　キンカン、センダン、ニワトコ、アケボノスギ（メタセコイア）、サクラ、フジ

きのこ：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　アミガサタケ

レポート：大石高典さん（京都大学理学研究科生物科学専攻動物学系）

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* 始めて参加しましたが、タンポポのくわしい説明で、これから野山に行ったら今日の説明を友人にもしてあげたらと思っています。自然の大切さを痛感しました。　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた　服部眞智子さん）
* 良かった。次回も出席したい。　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた　百成伸廣さん）
* いつもは木に気をとられていたので、足下に今回の話のようなタンポポ同士の競争があるとは気がつかなかった。　　　　　　　　　　　　　（実名ＯＫなのに無記名のかた）
* なにげなく見ているタンポポにも、いろいろがあったのは知りませんでした。いろいろ参考になりました。今日はすがすがしい気分で良かったです。お世話になりました。　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* いつもありがとうございます。いろいろ説明質問されておられるあいだも、もっと見に行きたく、奥の方もいろいろ行きたくいつも思ってしまいます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 残念ながら間にあいませんでした。西田さんのたんぽぽの話ききたかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（農学部院生　嘉田修平さん）
* 植物園の中と外で、タンポポの分布の違いを見ることができて興味深かったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（農学部院生　吉本冶一郎さん）
* 春ですねえ。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* なにげなく見ていたタンポポですが、今日以降はこれがカンサイタンポポかセイヨウタンポポか興味を持ってみるようになります。シロバナタンポポが在来種であるというのは驚きました。　　　　　　　　（近所のかた）
* 始めて参加しましたがとても楽しかった。タンポポの区別ができ分かりやすかった。花の名前や木の名前を教えていただきとてもよかった。花が美しかった。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 春はお花を見るのが楽しみです。タンポポに気を取られていましたが、上を見ると桜、ナシ、山ブキ・・・。楽しいひとときでした。タンポポの見分け方を、友人に教えてあげます。ありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 今回のテーマ「タンポポから探る生き物の分布」。身近な植物を目の前で観察しながら説明を受ける。大変面白いと思いました。　　（近所のかた　松井尚男さん）
* 草花の知識も勉強したいと思います。　　　　　　　　　　　　　（無記入のかた）
* 専門的によく分かりました！　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 4月からとなりの図書室でお仕事しています。初めて参加して楽しかったです。きのこがあってびっくりしました。　　　　　　　　　　（京大職員のかた）
* 身近な植物をみれて楽しかったです。　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* タンポポの説明、大変面白く拝聴しました。植物園の見学も楽しめました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* 植物園がどんな所か分かってよかったです。　　　　　　　　　　（学内のかた　宇野裕美さん）
* 京大の中で植物園にしかカンサイタンポポが生えていないのは興味深い話でした。いろいろ野草の花が咲いていておどろきました。（学内のかた）
* タンポポの名前でもカンサイ、カントウ、トウカイと地域によって分けられているのには勉強になりました。　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* ガイドの西田さん夫妻のすばらしい連携プレーで、植物と昆虫の両方の立場からタンポポを観ることができたと思います。北部構内の中でほぼ植物園だけにカンサイタンポポが分布しているらしいというのも、非常に印象的なデータでした。　　　　　　　　　　　（理学研究科動物学教室大学院生　大石高典さん）